

# 世界に平和を・戦争の基地はいらない

横田基地ミニ情報 2009.4.15 No. 41 連絡先 042-555-1911



## 米国領土の米軍基地に日本国民の税金使う グラム「移転」協定を強行

自民、公明両党は 10 日の衆院外務委員会で、在沖縄米海兵隊のグラム「移転」協定の採択を強行し、賛成多数で可決しました。

協定は、米国領土のグラム米軍基地に日本国民の税金 28 億ドルをつぎ込む世界に類例のない屈辱的な内容です。しかも、名護市辺野古への新基地建設を「条件」としているひどいものです。

名護新基地建設費は、少なくとも 3500 億円以上との見通しを防衛省が明らかにしました。(右、防衛省 HP・辺野古 V 字型滑走路)



## てっきよの会 航空総隊司令部の建築図面の情報開示を求めています

すでにお知らせした (ミニ情報 No. 34) ように、横田基地の撤去を求める西多摩の会の代表らは、1 月 29 日、さいたま新都心にある北関東防衛局に出向き、局長宛の要請文を米川報道官に手渡し、さらに司令部棟の平面図などの情報開示の手続きをしました。

この情報開示というのが、なかなか時間がかかります。手続きをしたときは、情報開示は約 1 ヶ月後、ということでしたが、さらに、「あと 1 ヶ月後」との通知が会代表にあり、手続きから 2 ヶ月が過ぎた頃、「一部情報開示をする」との連絡がありました。北関東防衛局に行かなくても、必要な書類など送れば、図面等は郵送するとのことだったので、現在は、郵送されてくる図面等を待っているところです。次号では、何らかの情報をお届けできるでしょう。

とにかく横田基地の米軍再編経費は、2007 年度から 2009 年度までの 3 年間で 488 億円というのですから、私たち国民は、税金の使い方を、しっかりチェックする必要があります。

## てっきよの会 横田基地の撤去を求め、4月19日(日)にすわりこみ行動!

### 1 時 30 分から 3 時 30 分です

春、スタートの季節。「横田基地の撤去を求める西多摩の会」は、横田基地前のフレンドシップパーク (児童公園) で、第 1 回の横田基地の撤去を求める“すわりこみ”行動を行います。  
みんなで参加しましょう!



写真上：羽村市のチューリップ畑。今年 4 月 10 日に撮影。他は「てっきよの会」の福生駅、羽村駅での宣伝スナップ。

北朝鮮のロケット発射問題について…日本共産党の志位和夫委員長は8日、水戸市で演説し、その冒頭で、次のように党の立場を表明しました。4月9日付「しんぶん赤旗」の記事を紹介します。

## 北朝鮮に核兵器開発を終わらせる—この最も重要な目的達成のための外交努力こそ

わが党は、ロケット発射について「自制」を強く求めつづけてきました。その立場から、私は、今回の北朝鮮の行動に対して、地域の平和と安定に緊張をもたらす恐れのあるものであり、「きわめて遺憾」であると表明しました。

### 6カ国協議での対話を再開させるためのあらゆる努力を

今後の対応で大切なことは何でしょうか。2つを強調しておきたいと思います。

第1に、国際社会にとって、いま何よりも重要な目的は何か。それは北朝鮮による核兵器開発を終わらせることにあります。朝鮮半島の非核化をはかることにあります。ここを見失わず、ここに努力を集中することが大切であります。この目的の達成のためには、外交的努力が唯一の手段であることは論をまちません。そして外交的解決の場としては6カ国協議こそが最良の場であり、そこでの対話を再開させることこそが大切です。そのために努力をつづけることが何よりも重要だということをまず強調したいのです。

### やみくもな制裁強化論、軍事対応論は外交的解決の障害をつくるだけ

第2に、そうした努力をつくさないままの、やみくもな制裁強化論、ましてや軍事対応論は、外交的解決をはかるうえでの障害以外の何ものでもありません。昨日(7日)、今日(8日)と、衆参両院で北朝鮮への「抗議決議」が採決されましたが、この決議には大きな問題点がありました。

まず決議では、北朝鮮の行動を「ミサイル発射」と断定していますが、「衛星」か「ミサイル」かについて現状では未確認であることは、政府自身も認めています。

また決議では、「国連決議に違反する」と断定していますが、「ミサイル」と断定できない以上、「国連決議に違反する」と断定する根拠もありません。

さらに決議では、「独自の制裁を強めるべき」としていますが、根拠のない、やみくもな制裁強化論は、日本の側から情勢の悪化をつくりだすこととなります。

わが党は、これらの問題点の是正を求めましたが、自公民が聞く耳をもたないという態度だったので、わが党は決議に反対しました。この種のやみくもな制裁強化論は、一見「勇ましい」ように見えても、何の役にも立たず、外交的解決をはかるうえでの障害をつくるだけで、有害です。

さらに有害なのは、軍事対応論です。政府は、ロケット発射にいたる過程で、道理に立った外交的努力をつくさないまま、ものものしい軍事的対応を突出させる態度をとりました。

これに対して、共同通信は「“強気発言”より外交努力を」と題してつぎのような「論説」を配信しました。

「政府を代表する麻生太郎首相が早々に迎撃する可能性を指摘、北朝鮮を挑発するような姿勢を取ることは、疑問を抱かざるを得ない。……『ミサイルを発射させない』ために、外交努力をぎりぎりまで尽くすことが政府の使命だろう。……首相が、やるならやってみろと言わんばかりの姿勢をとるのは、突出しすぎだ。共産党の志位和夫委員長が『外交努力をやらないまま軍事で身構えるのは、外交的解決を台無しにする』と批判したのも当然だ。……政局的思惑から離れ、冷静な議論を求めたい」。これは冷静な論評だと思います。政府に対し、「政局的思惑」を強く戒めているのも、まったく同感であります。

### 冷静で道理に立った外交の力こそいま強く求められている

北朝鮮は、過去の国際的な無法行為を清算していないという問題点をもっている国です。だからこそいっそう日本は、冷静で道理ある立場を、厳格につらぬく必要があることを、とくに強調しなければなりません。そうした立場を欠いた、やみくもな制裁強化論や軍事対応論は、日本のよって立つ立場を失わせ、事態を悪化させるだけでしょう。日本共産党は、北朝鮮の核兵器開発を終わらせ、この地域の平和と安定をはかるために、冷静で道理に立った外交の力こそいま強く求められていることを訴えるものです。